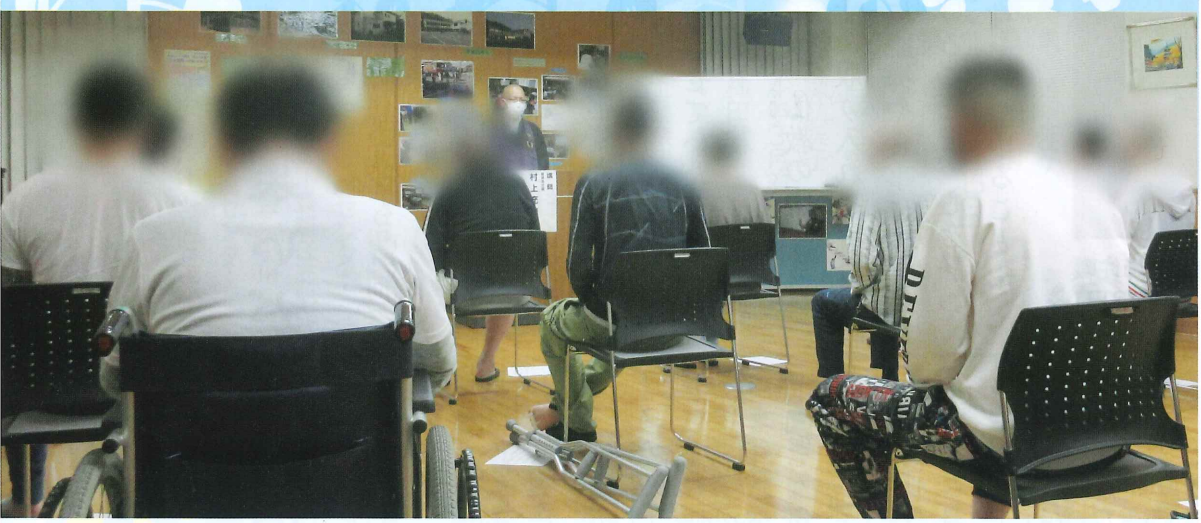
島根更生保護施設だより
しらふじ
第92号
令和4年8月1日
発行／更生保護法人 しらふじ
発行責任者／大野美雄
編集責任者／松本英史

年4回「法話の集い」開催



年4回開かれる「法話の集い」

更生保護法人「しらふじ」では、利用者が自分の生き方について考えるきっかけになれば―と、僧侶による「法話の集い」を開いています。分かりやすい言葉で生きることや物事の考え方を伝え、利用者の自立や社会復帰につながるよう支援しています。

利用者の自立 社会復帰支援

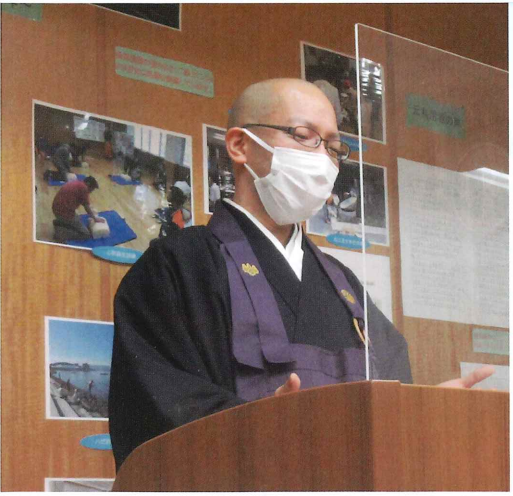
「しらふじ」の記録によると、大野美雄理事長が当時、評議員だった2000年、利用者に講話をしたのが始まり。役員に僧侶が多かったことから、順番で講話をすることになり、04年から年4回、日曜日の夜に開催するようになりました。役員の講話が一巡したのを機に「いずも曹洞宗青年会」に依頼、快諾を得て以来、「法話の集い」と名付けて今に至っています。

5月22日は「食事を通じて感謝の気持ちを持つ」「椅子に座った座禅（調心・調息・調身）」をテーマに、龍徳寺（松江市国屋町）の村上充峰住職が利用者に約1時間講話。食事の前に唱えることば「五観の偈（げ）」について、感謝して食事をいただくことの大切さを分かりやすく説明。利用者は熱心に聞き入るとともに、椅子を使っての座禅では短い時間でも心を無にすることの難しさ体験し、講話後の感想では一様に感謝の気持ちの大切さを記すなど充実した一夜となりました。

法話の集いへの思い

法話の集いが活動の励み

いずも曹洞宗青年会　中村　裕光会長



食の大切さを説く村上充峰住職
（5月22日）

いずも曹洞宗青年会では、会員の自己研さんと社会貢献を目指した活動を行っており、その一環として平成27年から法話を行わせていただいています。

法話では、仏教の中でも日常の生活に取り入れやすい事柄、特に座禅や食事について取り上げることで、心を静め自分自身を見つめることや、周囲への感謝の思いを持つことの大切さなどをお伝えできるよう心がけています。そのような私たちの言葉がほんの少しでも利用者さんの心に残り、自立や社会復帰へ向け、前向きな気持ちになっていただけることを願い、お話しさせていただいています。

熱心に耳を傾けてくださる方や、終了後に直接質問してくださったり、お礼の言葉をかけてくださる方もあり、それが私たちが活動する上での大きな励みとなっています。

今後、私たちもさらに研さんを重ね、利用者さんとより良い「法話の集い」の場をつくっていけるよう精進してまいります。

利用者の感想

感謝　ただただ感謝!!

食事の前に唱える言葉「五観の偈」の話を聞き、中でも「成道のための故に今この食を受く」という言葉の意味を知ることができて、とてもためになった時間でした。

また、椅子座禅を皆と一緒にできて、いい思い出となりました。普段できない貴重な体験で、気持ちも少し清らかになったようです。講話を聞いて正道というものを少し学べたことが、今後生きていく中でも何かの役に立つと思います。

感謝を忘れず、また、努力を続け薬物と無縁の健全な生活をと思います。

（K・Yさん）

仏性は誰にでもあるものということを知りました。そして「五観の偈」という食事の前に唱える言葉を教えてもらいました。普段、何気なくとっている食事に感謝の心が薄くなっていましたが、法話を聞いて、少しずつ感謝の意識をしていこうと思うようになりました。

（S・Kさん）

「五観の偈」ということを知りました。食事に対して感謝の気持ちを持っていますが、それが当たり前になると気持ちが薄くなると思います。なんにしても初心を忘れることのないようにしていけたら人として成長できると思います。

（T・Mさん）

法話の中で仏性という言葉が出ました。お釈迦様は暗闇を照らす月を見て人間の本質は月のように光り輝くものだ、そして

その月を覆い隠す雲のようなものがいわゆる罪を犯したり、精神的に不健康な状態にあり、本来の光り輝く人間の本質を見失った状態であると考えられたそうです。要はいくら分厚い雲に覆われていても、その向こうには常に光り輝く月はそのまま有るという事を今一度、考えさせられました。

これから私たちは自分の光を遮る分厚い雲をいかにして取り除くのか、その方法を模索しなければなりません。

（T・Hさん）

講話を聞いて、食事をする時は感謝の気持ちを持って食べようと思いました。それと、5分間の座禅でしたが、何も考えないということは難しいと思いました。生きていれば何かしら考えているのですが、何も考えない時間も大切だと思いました。

「しらふじ」でいろいろな人のいろいろな話を聞いて、自分のためになるようにしようと思いました。

（S・Hさん）

先生の話を聞いて感じたことですが、すごく良かったと思います。食事をする時の『いただきます』は、自分も毎日やるようにしています。

衣食住がこれから施設を出て一人になった時も先生の講話を日々忘れず生活を送るよう心がけます。般若心経や座禅や写経をずっとしていたから、先生の話が聞けて良かったと思います。ありがとうございました。

（T・Mさん）

宗教は違いますが、人間として生きていく、食していくにはそれなりに働き、一日3回の食事をとり、一年をしっかり過ごすことを目標にしていきます。ありがとうという感謝の心を忘れずに生活をしていきます。

（H・Oさん）

毎日黙々と裏山清掃

「有意義な日々にしたい」

「しらふじ」の裏山を清掃活動する男性がいます。4月19日に入所し、5月26日に退所するまでは毎日作業をし、退所後も猛暑をいとわず整備作業を続けています。「皆さんの心に残ることをしたい」と黙々と…。

E・Tさん（76歳）。「しらふじ」で次のステップに向けての生活が過ごせている、その感謝の思いから、「有意義な日々にしたい。自分に何ができるのか」と考え、施設の整備を思い立ったといいます。また「ここに集う方々の心に残ることをしたかった」とも。

暑さの中裏山清掃に励むE・Tさん

「しらふじ」は丘陵の西側ふもとに建てられていて、裏庭は丘陵へと続いています。E・Tさんは、まず施設周囲の生け垣をせん定。補強用の竹を裏山から切り出し、色鮮やかな竹に交換しました。雑草を抜き、きれいな裏庭、裏山に整備するだけでなく、花の種をまくなど心を和ます工夫もほどこし汗だらけになって作業に取り組んでいます。

丘陵には県立高校があり、裏庭は生徒たちの通学路と接しています。ある朝、近所の女性から「きれいにされますね」と声をかけられたE・Tさん。「すごくうれしかった」と顔がほころびました。

E・Tさんには大野美雄理事長から感謝状が贈られました。

大野理事長から
感謝状を受け取るE・Tさん（左）

お便り

K・Sさん

愛のマスクです。私は90歳のオバアちゃん。

コロナなんかに負けないで優しく、強く元気で生きてください。あなたの本当のオバアちゃんからのプレゼントと思って使ってくだされば嬉しいです。

1通目　K・Oさん

寒波も緩み、本格的な春の到来を迎えました。柔らかな春の日差しが心地よい季節を迎えました。皆さまお元気でお過ごしのことと存じます。仕事（ガードマン）で香川県の直島に行ったのでお菓子を送ります。

私はそちらにお世話になってから、もう2年と4カ月が過ぎました。これも皆さまのおかげです。皆さまもお体を大切に頑張ってください。

2通目　K・Oさん

暖かい春の日差しが心地よい季節となりました。職員の皆さま方お元気でお過ごしのことと存じます。4月は年度替わりで仕事（ガードマン）が減ります。大変な時季です。

「しらふじ」を退所してから2年6カ月になります。こんなに長く刑務所に行かないのも初めてで、これも皆さまのおかげです。皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

また手紙を書きます。

写真アラカルト

心もサッパリ　一斉清掃

たくさん食べて
カレー支援

気持ちはオリンピック選手　スリッパ卓球大会

表彰

（敬称略）

◆令和四年春の叙勲
しらふじ施設長
瑞宝中綬章　矢野喜郎

役職員人事異動（退任・新任・退職）

退　任（令和4年6月15日）
理　事　陶山和實
評議員　宮下淳子
評議員　布野正則

新　任（令和4年6月15日）
理　事　松原　正
理　事　門脇正人
評議員　吉長裕教
評議員　諏訪美子

退　職（令和4年3月31日）
福祉担当　柿田健二

新　任（令和4年4月1日）
福祉担当　土屋奈津子

来所者

（敬称略）

◆ハローワーク庶務課長　塩毛隆宏
◆司法修習生研修　9名
◆町内居住者施設見学
◆佐田地区更生保護女性会　3名
◆島根あさひ社会復帰促進センター
平床センター長離任あいさつ
◆美保関地区更生保護女性会　小川久美子
◆島根あさひ社会復帰促進センター
谷本センター長着任あいさつ
◆島根県立松江北高等学校
校長・教頭　着任あいさつ
◆高見康裕衆議院議員視察
◆元職員親戚の方
白南天・しらふじ鑑賞　3名
◆松江地区更生保護女性会
青木会長　他3名
◆コレワーク中国　宮本氏・石原氏
◆中国委員会三本松委員長視察
◆社会貢献支援財団　黒川氏

寄付金

（令和4年1月1日～令和4年6月30日）

（敬称略）

◆西　億都
◆矢野喜郎
◆浜田地区更生保護女性会浜田支部
◆佐田地区更生保護女性会
◆美保関地区更生保護女性会
◆福代明正
◆松江地区更生保護女性会
◆深貝登志子

寄付品

（令和4年1月1日～令和4年6月30日）

（敬称略）

◆塩毛隆宏／ネクタイ
◆邑智地区更生保護女性会美郷支部／衣類
◆更生保護施設等支援協議会
（事務局　藤本晴男）／食品
◆浪花秀明／食品
◆花田なをみ／野菜・たまご
◆スクラム工業／洗剤
◆吉野光徳／野菜
◆佐田地区更生保護女性会西須佐支部
／食品・衣類・日用品
◆野津雅史／わかめ・衣類
◆中村弘恵／衣類・かばん
◆井上大昂／砂糖
◆大菅あけみ／作業着
◆島根県立松江工業高等学校／実習服
◆石倉好子／鮮魚
◆菅野喜隆／バナナ
◆佐藤啓子／野菜
◆佐目　葆／靴下・衣類
◆島根地区更生女性会／衣類
◆陶山和實／マスク
◆LCC株式会社／米
◆青木薫代／切手
◆西尾　聡／衣類
◆井上民子／衣類
◆橋本道子／りんご・紫陽花・お菓子
◆邑智地区更生保護女性会邑南支部
／生活用品・衣類・米・野菜

（令和4年1月1日～令和4年6月30日）

お詫びと訂正

「しらふじ」第91号の寄付品欄に、【邑智地区更生保護女性会邑南支部／生活用品・衣類・米・野菜】の掲載漏れがあり、ご迷惑をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。

助成金

◆更生保護法人島根保護観察協会

（令和4年1月1日～令和4年6月30日）

しらふじ友の会

（敬称略）

【賛助会員】
◆内藤　昇
◆安田章夫
◆黒田西原なごやか会
【普通会員】
◆藤原三葉
◆河野ヒロ子
◆ロイヤルサポート
【特別会員】
◆村上正光
◆野津雅史
◆平田地区更生保護女性会
◆安来地区保護司会
【法人会員】
◆松江地区保護司会
◆出雲地区保護司会
◆曹洞宗島根県第二宗務所
◆曹洞宗島根県第二宗務所第三教区

（令和4年1月1日～令和4年6月30日）

お詫びと訂正

「しらふじ」第91号の、しらふじ友の会法人欄に【曹洞宗島根県第二宗務所第三教区】の掲載漏れがあり、ご迷惑をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。

施設の運営にご協力のお願い

しらふじ友の会
会員の募集

施設や事業の充実のために物品や資金が必要です。そのためご寄贈をお願いし、会員を募集しています。会員と年会費は下記のとおりです。

●賛助会員　2,000円以上　●普通会員　5,000円以上
●特別会員　10,000円以上　●法人会員　20,000円以上

入金及び寄付金振込先	ゆうちょ銀行（口座番号）　01450-1-30366 加入者名　更生保護法人しらふじ

詳しいことは、下記までおたずねください。
更生保護法人しらふじ　松江市奥谷町306-1
TEL 0852-21-5383　FAX 0852-67-5393
メールアドレス：shimanekouseihogokai@sage.ocn.ne.jp
ＨＰ アドレス：http://shirafuji-shimane.com
しらふじ　検索　でも検索できます。

福祉担当を拝命して

土屋　奈津子

この4月に「しらふじ」の福祉担当を拝命しました。

私の仕事は、一般に社会的弱者と言われている方々が社会の中で生活できるように自身の抱えている課題を整理し、本人と共に自立に向けて考え、必要な支援につなぐことです。

身寄りもなく、社会的孤立状態にあり、自らSOSを出すことが困難な方にとって、単に「頑張って自立しましょう」と言われても、ひとりで考えて行動するのは非常に困難なことだと思います。

利用者と面接する土屋福祉担当
（普段はコロナ対策を行っています）

利用者の中には自分の居場所を失い、社会の中で孤立する高齢者や障がいがあるなど「生きづらさ」を抱えた方がいらっしゃいます。このような状態にある方々に社会の中での「居場所」や「役割」を作ることが大切だと思いますので、「しらふじ」の生活の中で必要な支援を考え、医療、福祉、行政、地域と連携し、社会に出られてからの再犯防止、自立した生活ができるよう尽力したいと思います。

福祉担当として着任し、地域の方々をはじめ関係者の方々など、多くの方に支えられていると実感し、感謝する毎日です。どうか皆さまのご指導、ご鞭撻（べんたつ）よろしくお願いします。

白南天

津和野町左鐙（さぶみ）。段々畑が続く細い道を息せき切って登った先に目指す家はありました。眼下に高津川、周囲は山また山、家の脇を岩清水が流れ落ち、トンボが飛び交い蝶が舞う。日本の原風景を思わせる場所で、私が向かい合ったのは悲しいかな遺影でした。元左鐙公民館長の藤井茂治さん、享年81歳。私自身が今春、妻に突然先立たれたことも重なり、景色も遺影も何もかもが涙でかすんでしまいました。

超少子化、高齢化の波にもまれながら、愛する左鐙のためにユニークな取り込みを次々と展開する茂治さんと出会ったのは20年以上も前のこと。ことに驚いたのが、左鐙地区民による年1回のテレビドラマ作成でした。脚本からスタッフにキャスト、撮影、音楽まですべて住民の手作りで、春夏秋冬号からはじまり本数を重ねていきます。そのエネルギー、団結力、完成度の高さに驚き、何本かを錦織良成映画監督に見てもらいました。それから左鐙地区と錦織監督との交流が始まり、映画「高津川」へとつながっていきます。いつもその中心にいたのが茂治さんであり、電話や手紙で近況を知らせ合い、送られてくるDVDを楽しみにしていたものです。

「母（茂治さんの妻）を早くに亡くし、失意の中にあった父を立ち直らせたのが映画作りと神楽でした」と息子の宏さん。そして今夏、退院前日に茂治さんは帰らぬ人となり、呆然と立ち尽くす宏さんや地区の人たちの背を後押ししたのが他ならぬ錦織監督でした。「来春に交流を再開しましょうよ」。この一言には、茂治さん亡き後も皆でテレビドラマを作り続けてほしい、悲しみを乗り越えて一日も早く制作に取り掛かって、という二つのメッセージが込められている気がします。

「人は生きていたときのように死んでいる」。山下清の生涯を描いた「裸の大将一代記」で知られる作家・小沢信男氏の言葉です。没後も今までの人間関係は生きている、地球上には、あの世が霞（かすみ）のようにたなびいている、そんな感じだと。その意味に深く共感しながら、翻（ひるがえ）って我は、これからの人生をどう生き抜くのか。助手席で変わらぬ笑みを浮かべる遺影と無言の会話を交わしながら左鐙を後にしたのでした。

（瑛）